

平成30年度第2回庄原市「学びの革新」推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会

平成30年8月9日（木）10:00～16:35 庄原市ふれあいセンター

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話】「研究主任の役割」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



- 研究主任として、研究推進計画の立案・実施・まとめ、研究推進に係る連絡調整・体制づくりを行うこと。また、研究の柱となる「授業研究」を充実させること。
- 研究仮説に基づく授業仮説が学習指導案に表れるよう、研究主任として指導助言をすること。

【参加者の感想等】

- ◆自校の研究の進捗について振り返り、見直すことができた。8月中に2学期に向けた取組の整理ができそうだ。
- ◆研究主任として、研究主題の見直しなど、早速取りかからないといけないと思った。

【講話・演習】「総合的な学習の時間の全体計画について」

広島県北部教育事務所 指導主事 宮地 隆治



- 総合的な学習の時間の全体計画について、新学習指導要領に基づき、目標を設定し、育成したい資質・能力や学習過程等を明らかにすること。

【演習】総合的な学習の時間全体計画を見直し、作成する。

【参加者の感想等】

- ◆総合的な学習の時間の全体計画作成のために必要なことが明確になった。
- ◆校内で「探求的な課題」になっているかを検討する予定であるため、全教職員で計画の見直しを図りたい。

【講話・演習】「学習評価のポイント ～目標準拠評価の基本とパフォーマンス評価～」

広島県立教育センター教科教育部 指導主事 大和 浩子
指導主事 石原 修



- 評価は、指導に生かすために行われるものであり、妥当性と信頼性が確保される必要がある。

- 目標準拠評価とは、設定した目標に対して、児童生徒がどの程度到達しているかを見取るものである。パフォーマンス評価とは、リアルな文脈において知識やスキルを総合的に使いこなすことを求める課題（パフォーマンス課題）に対する、児童生徒のパフォーマンスの質を、段階的評価基準（ルーブリック）に基づき、評価するものである。

【演習】パフォーマンス課題とルーブリックに基づき、児童の解答を評価する。

【参加者の感想等】

- ◆評価の妥当性と信頼性について、教員の正しい理解が必要だと思った。
- ◆評価を、日々の自分の指導を見つめ直すきっかけにしたい。

